

## サバンナきっての俊足チーター

アニマルフォトグラファー

トラベルライター

平 岩 雅 代

アフリカのサバンナ(草原)に暮らす肉食獣の中で、美しさはどこか気品の漂うムードから、観光客(とりわけ女性)に最も人気のあるのが、チーターです。

かつてはアフリカ大陸の他に、アラビア半島のシリア、イスラエルなどにも分布していたといわれるチーターですが、現在ではアフリカ大陸の見通しの良いサバンナに暮らしています。

アフリカにはチーターの他に、ネコ科の肉食獣で、ライオン、ヒョウ、カラカル、サーバルキャット、ジネットなどがいますが、全力疾速のスピードと、全身をバネのようにしならせて走る姿の美しさでは、とてもチーターにかないません。チーターが出すことのできる最高時速は、110キロとも120キロともいわれていますが、それこそ見ていて惚れ惚れするほどです。ところが無駄なぜい肉がないチーターは、スタミナもそれほどなく、最高時速を維持できるのが、せいぜい30~40秒。つまりチーターの狩りは、至近距離まで標的に近寄り、瞬時に勝負を決めるのです。

ライオンの狩りがチームで行われるのに対して、チーターの狩りは、原則として単独

で行われます。例外的に成長した子どもたちが、力を合わせて狩りをすることはありません。しかし、ほとんどは幼い子どもを安全な場所に隠した母親が“ごちそう”を持って帰るか、気ままにひとり暮らしを楽しんでいるオスが、自分の食べる分だけを手に入れるのです。

ところでチーターとヒョウを混同する人が、意外に少なくありません。どちらも体に斑点がありますが、チーターの柄は黄色の地に黒い水玉模様。ヒョウは斑点の中にもうひとつ柄がある花びらのような模様です。

体格も両方を比べてみますと、ヒョウの方が肉付きがはるかに良く、体重もチーターの倍以上あります。いちばん見分けやすいポイントは、チーターの顔にある黒い筋です。目頭から頬にかけてちょうど涙を流したように見える筋がそれです。別名“涙線”(なみだせん)とも呼ばれています。

チーターは他のネコ科の動物と爪の構造が違います。ネコやライオン、ヒョウなどの爪が自分の意志で掌に引っ込めたり、伸ばしたりできるのに対して、チーターの爪はイヌの爪のようにいつも伸ばしたままの状態です。これは早く走るためのもの。急ブレ

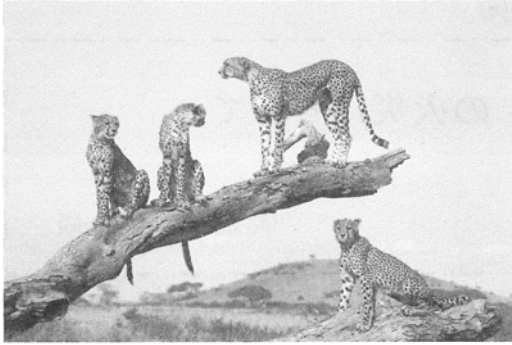


写真1 珍しい木登りチーター

一キをかけたり、方向を変える時のスパイクの代わりになるように、という理由です。

このような理由で、チーターは木登りはしない動物だというのが、世界中の動物学者の間で定説になっていたのですが、何故かチーターが4頭も一度に木登りをしてしまった、世界的に珍しい瞬間が、ここに紹介する写真です(写真1)。時間にしてわずか1分位の、アッという間の出来事でしたが、今でも夢のようです。この写真は後日、ケニア政府から「野生動物の楽園として有名な我が国の観光PRポスターにしたいので、ぜひ買い上げたい」という申し出があり、16コマ撮影したうちの1枚を、無料でプレゼントし、ケニアと日本を結ぶ民間外交官・親善大使と呼ばれるようになった、忘れられない作品です。

チーターの獲物は小型と中型の羚羊類がほとんどです。トムソングゼルやグランツガゼルなどです。ところが、苦勞して捕らえたせつかくの獲物も、ハイエナに横取りされることがしばしば……。獲物を口にして、まだ荒い息づかいを整えているチーターに、1頭のハイエナが近づいてきますと、ハイエナの無言の圧力に、チーターは悲鳴をあげて獲物をその場に残し、尻尾を巻いて逃げてしまいます。

チーターにとって唯一の武器は俊足。余計な争いで大切な脚に怪我でもしたら、狩りができなくなってしまいますから、下手に抵抗するよりも、逃げるが勝ちなのかもしれませぬ。それにしてもチーターは見れば見るほどスマートな姿ですね(写真2)。

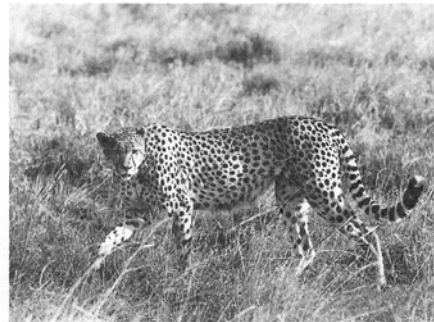


写真2 草原を闊歩するチーター

〈チーターひとくちメモ〉

- ▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、チーターはドゥマと呼ばれている。
- ▶野生のチーターの寿命は、約15年。

1回のお産で平均4～5頭が生まれ、1年半ほどで成獣になる。妊娠期間は3カ月前後。

▶チーターの体重は成獣で50～60kg。ヒョウが100kg以上、ライオンが150～200kgに対して、はるかに軽い。